

議 事 概 要

主な意見は以下のとおり。

プレ調査の結果について

- プレ調査で乗った方に対するアンケート結果と、ヒアリングだけのアンケート結果は異なると思う。その中で、クルーズ客へのアンケートで「乗ってみたい」と思われる方が、アンケート総数の半数以上いたことが、今回の調査での大きな成果だと思う。
- 事業化に向けては、ランドオペレーター及び船舶代理店に旅行商品として組み入れていただける魅力があるかが重要。

今後の進め方（案）について

- 水上交通を観光として捉えるのか、時間短縮のための移動手段として捉えるのか、また、客層によってもニーズが異なることから、それらを見極める必要がある。
- ツアー客の移動手段の一つとして、ツアーの中に水上交通を入れ、お客様へ楽しんでもらえる、アクティビティ（遊び・体験）を提供できると良いのではないか。
- 水上交通は、同じコースを往復するのではなく、行きと帰りは違うルートが良いと思う。
- 例えば、行きは長州出島～唐戸、食事や関門人道トンネル、門司港レトロに寄って頂いた後、帰りは門司港～長州出島、といった周遊ルートがある。
- 長州出島から門司へ行くルートの場合は、関門橋下を周回すると観光的には良い。
- 実際に事業化するには、ルートはもちろん、値段設定も重要。
- 観光案内時は、案内が良く聞こえるように一人一人にヘッドセットを着けて頂くと良い。
- 中国発着クルーズ船は、今後も当面ツアーによる観光形態が大半を占めることが予想されるため、ツアーを造成するランドオペレーターの意向が重要。実証実験でランドオペレーターに乗って頂いて意見を聞いた方が良い。
- 個人客に対しては、船舶代理店にも協力頂き、クルーズ船内でPRしてもらうことが必要。

（了）